

令和3年度 第1回 学校運営協議会議事録

校名	大阪府立勝山・大阪わかば高等学校
校長名	幸川 由美子

開催日時	令和3年7月26日(月) 15:30~16:40
開催場所	府立勝山・大阪わかば高等学校 視聴覚室
出席者(委員)	榎本 欣弥会長、山本 義彦副会長、上西 啓介委員、山本 陽彦委員
出席者(学校)	幸川 由美子(校長)、大西 俊猛(准校長)、石野 靖(教頭)、長谷川 史子(教頭)、石川 良隆(事務長)、松本 展幸(首席)、石井 悠太(首席)、上善 武(教務部長)、福本 嘉廣(生徒部長)、高野 雄平(進路部長)、大谷 登(勝山第3学年主任)、平川 誠(大阪わかばクラス主担)、加藤 圭祐(教諭)、今井 みゆき(教諭)、岡本 千加(教諭)
傍聴者	
協議資料	令和3年度 学校経営計画に基づく本年度の取り組みについて 学校教育自己診断について
備考	

議題等(次第順)
(1)校長挨拶 (2)委員・事務局員等紹介 自己紹介 (3)資料確認 (4)使用教科書選定結果報告 (5)会長・副会長 選出 (6)協議：令和3年度 学校経営計画に基づく本年度の取り組みについて 学校教育自己診断について (7)校長謝辞
協議内容・承認事項等(意見の概要)
○会長・副会長の選出について 榎本 欣弥様を会長、山本 義彦様を副会長とする。 ○令和3年度 学校経営計画について(学校長より) ・勝山高校・大阪わかば高校の学校経営計画及び学校評価(別紙)に基づき「めざす学校像」、「中期的目標」、「本年度の取組内容及び自己評価の中期的目標、今年度の重点目標、

具体的な取り組み計画・内容、評価指標」を説明。

○同上(各校務分掌・学年より達成目標提示)

○学校教育自己診断について

・基本的には昨年同様実施するが、昨年度の委員からのご意見をもとに保護者用の回収率を上げるために、インターネット等を用いたアンケートシステムでのアンケート回答・提出を検討し実施したい。

○委員からの意見・質問

・勝山高校の求人状況はどうなっているのか。

→昨年・一昨年より2割減(1000社程度)である。今年度、会社数は増えているが、延べ求人数は減っている。この数字について生徒が就職先を探すうえで不足する程度ではないと考えている。

・本校(中学校)もICT化が進み一人一台学習者用端末となり補助員が週2回来校し指導されるもなかなか進まない状況にあり、貴校と同様、中学校も同じような悩みを抱えている。

・「教えるための道具ではなく、学ぶための道具」はまったく同感である。自ら学ぶためにはどのような活用ができるのかが課題であり、中学校段階から取り組みながら高等学校につないでいかないといけない。

・コロナ禍の影響で、本校(中学校)も修学旅行が9月半ば延期になった。文化祭、体育祭はできる限り子どもたちのためにやってあげたい。安全を守れるぎりぎりのラインを探っており(午前中で終わる、種目を減らす、体育館には全生徒の半分しか入れず交代制にする等)、実施を工夫する必要がある。

・コロナ禍の影響で、本校(中学校)の2年生を見ているとリーダーが育っていないように思う。高校に入りその影響が出てくるのではないかと心配している。現在は、なんとか学習活動を継続している状況である。

・地域としては、学校と地域が連携して良い環境で生徒に学んでほしいと思っている。

・大阪わかば高校は私服であるため、生徒の見分けが難しい。

・地域もコロナ禍により、行事がなくなっている。今後はワクチンが出てきて元通りなることを願っている。

・勝山高校から大阪わかば高校へ変わっていくという様々な状況の中、新しい取り組みをどんどんとされており感心した。

・勝山高校は、今年度が最後の学年。生徒目線で考えれば寂しいもの。ぜひ生徒を大事にし、フォローしてあげてほしい。また、同窓会の方々の声も聞き、最後の学年の生徒をしっかりと見守ってほしい。

・大阪わかば高校については、こつこつと実績を積み重ねていく努力がいちばん大事ではないかと考えている。

・広報についても実績をアピールすることが大事だと考えている。生徒目線でアピール

することが一番近道ではないかと感じている。大阪わかば高校1年次・2年次生の力を借りて学校の良さを作り出してほしい。

- ・教職員で全部やっしまおうと思うのではなく、大学生、近隣の中学校や産業界の方々などのいろいろな力を借りて、よりよい学校を作ってほしい。
- ・勝山高校は今年度で閉校であり、子どもたちに対する思いが伝わるような目標や説明であったように感じた。
- ・両校の学校教育自己診断については、アンケート調査の時に、初めてアンケート項目を目にする生徒が多かったのではないかなと感じた。そこで、例えば、勝山高校の生徒88名全員が「勝山高校に入学してよかった」と思える学校をめざしている（最大で一番良い肯定的回答になることをめざしている）ということ、アンケートを取る前に生徒に示すことで、生徒たちも期待に応えてくれると考える。
- ・人生のほとんどがリーグ戦のようなものである。貴校はリーグ戦に勝っていけるような生徒を育ててきた（一人一人を大切にしている教育を実施されてきた）と考えている。
- ・ある著書に、「多様性は多数決で決めてはいけない」とある。すなわち、一人ひとりを大切にしていけることが大切である。今後、生徒に接していくときに、多様性について戸惑う時があれば、基本的人権に立ち返れば答えが出てくると考える。

次回の会議日程

日時	令和3年11月～12月ごろ 予定
会場	